平城宮跡資料館　令和三年度　春期特別企画展
『平城宮跡保存運動のさきがけ』
（会期：令和三年四月二十九日～五月三十日）

◎展示品翻刻文（抜粋）および展示品目録

◆２章　平城宮跡のむかし

２章　⑥大和名所図会　巻二　※該当箇所を抜粋。

皇居の跡ハ今の奈良の町にハあらず興福寺の西、超昇寺郷二条村の南、街道の巽に築地の内といふ字の地あり。今も田を作らず。又此所に内裏乃宮と呼ぶ小祠あり。

古今　ふるさとゝ成にしならのみやこにも色ハかはらす花ハ咲けり　（平城天皇）ならのみかとの御うた　抄曰平城天皇大同天子

保安百首　菫さくならの都の跡とてハ石すへのみそ形見なりける　源仲正

続拾　ならのはの名におふ宮の子規世々にふりにしことかたらなん　法印公朝

２章　⑦家宝の亀鑑　※都跡村村名の由来についての箇所を抜粋。

【翻刻】

「都跡村」ノ村名ヲツケタルハ、町村制実施ニ当リテ横領村外四ヶ村戸長役場ト砂村外四ヶ村戸長役場ト連合シテ旧十ヶ村ノ連合ナリ。村名ヲ撰ブニ付、戸長福山嘉次郎・用掛中西八郎平・惣代岡島彦三ノ三人凝議再三ニシテ名称ヲ撰ブアタワズ、為ニ彦三ノ発案ニテ十ヶ村併合ノ上ハ将来仲ヨクセザルヲ得ス、故ニ和合村トセハ如何ト計リシニ賛成ヲ得テ、時ノ管轄庁添上外四郡長稲葉通久ヘ報告セシニ、和合村モ宜シキモ貴方ニハ平城宮趾モアルナレバ今一応再考サレテハト、態々主席郡書記近藤勝清氏ノ出張アリシ故、再応協議セシニ、大和名所図会ニ源仲正卿ノ詠セラレシ中ニ「菫咲く奈良の都の跡とては形見の石ずゑ今にのこれり」トアリ。此ノ都ノ跡ノ句ヲ「都跡」ト名称ヲ付ケテ郡役所ヘ報告セシニ、大ニ称賛ヲ得テ現在ノ都跡村トナレリ。

※赤字のふりがなは原本でのふりがなをあらわしている。

【現代語訳】

「都跡村」の村名の由来には、そもそも町村制の実施にあたり横領村の他四ヵ村戸長役場と砂村の他四ヵ村戸長役場とが合併して旧十ヵ村となった経緯がありました。村名を選ぶにあたり、戸長の福山嘉次郎・用掛の中西八郎平・惣代の岡島彦三の三人が再三協議したのですが、村の名称をなかなか決められないでいました。そこで、岡島彦三が「十ヵ村が合併したからには、将来この村々が仲良くする必要があるから、新しい村名を和合村としてはどうか」と発案して賛成されました。早速、当時の管轄庁であった添上外四郡の郡長稲葉通久へ報告しました。稲葉通久からは「和合村という村名もよろしいが、あなた方の村には平城宮址があるので今一度考え直してはどうか」と言われ、わざわざ管轄庁の主席郡書記である近藤勝清氏が出張してきました。そこで再び村名について協議しましたところ、『大和名所図会』という書物の中に、源仲正が詠んだ歌として「菫咲く奈良の都の跡とては形見の石ずゑ今にのこれり」というものがありました。この歌の「都の跡」という句から「都跡」と名付けようと決め、郡役所へ報告しましたところ絶賛され、現在の都跡村という名になりました。

2章　⑧棚田嘉十郎聞書(追親王跡去昇天我父之経歴)

※該当箇所を抜粋。

（前略）其当時二十八年ノ春
公園デ植樹シテ居ルト、日々春日大仏ヘノ参詣客ガ
「若シ〳〵一寸御尋ネ申シマス」ト赤毛布背ニ負ヒ、仙台
トカ鹿児島辺ノ人達ヤ国々ノ参詣客ガ「昔ノ御
所跡ハ何処テアリマスカ」トカ、「都ノ跡ハ何処デアリマスカ」ト尋ネ
ルモノ数百回、私ハ都ノ跡ハ法華寺ト思ヒ、尋ネラレル人ニハ
「之レヨリ一里西ノ法華寺ト云フ処ハ御所デアリマス」ト教ヘテ
居リマシタ。自分ハ何分山間生レノ無教育故、何モ不
分明ニテ教ヘテ居リマシタ。人ハ法華寺御所ト申スニ付キ
同寺ガ御所ト思ヒシナリ。私ノミナラズ奈良ノ人ガ奈良デ
生レナガラ大抵其頃ハ法華寺カ都跡、法華寺御所ト
称シテ居タノデス。二十九年ノ冬、都跡村佐紀ノ山下鹿三
ト云フ人ニ出合ヒ、其時「都跡ヲ法華寺デアルト云フイマスガソ
ウデアリマスカ、御前ノ村ハ都跡村ト申スガ何ヲ以テ都跡村ト
云フノデアリマスカ」ト尋ネタ其時、山下氏ノ云フニハ「私ノ村ハ昔
奈良朝ノ都跡ダ」ト申シマス。「其ノ証拠ニハ私ノ宅ノ前ニ
大極ノ芝ト申ス芝ガアリマス。其ノ北後ニ小安ノ芝ガアリ南ニハ
十二堂ト云フ芝ガアリ、又西ノ方ニハ大ノ宮(大野ノ宮)ト云フ森ガア
リマス。是ハ昔ヨリ皆々聞キ伝ヘニシテ村民ノ知ル所ナリ。故ニ
都跡村ト云フ」。私ハ夫レヲ聞イテ大ヰニ満足シマシタ。今後尋
ネル人ニ答ヘル材料トナリマシタ。就テハ実地ヲ一度調ベテ見タイト
思ヒ、二十九年十二月十一日山下氏ノ宅ヘ出掛ケタ。幸ヒ居合シ
タノデ、同人ノ案内ニテ芝地ヲ拝見シタ処ガ、農家ガ牛ヲ繋
グノデ、其ノ芝地ニ牛ノ糞、所々ニ山ク如ク積ミ重サナリ、実
ニ見ル影モナキ有様、之レヲ皇居ノ址ト云フハレ様カ、勿体ナイ、
畏レ多キト思ヒ、知ラズ〳〵ニ涙出テ、泣キナガラ山下氏ノ宅ヘ
帰リマシタ。（後略）

◆3章　明治三四年の標木建設

3章　⑭平城宮大極殿旧址建標録(⑬)文首

平城宮大極殿旧址建標録

都跡居民　　于口禾編

謹テ惟ルニ、吾都跡村大字佐紀ハ、人皇第四十三代
元明天皇和銅三年春二月奠都ノ詔ヲ下シ給ヒ、示来文
物燦然タリシ。即チ奈良七朝宮居シ給ヒシ平城ノ地ニシテ、
東ニ春日三笠ノ諸山聳ヘ、西ニ生駒志貴ノ諸嶺連リ、北
ハ一帯乃良山脈ニシテ、南ハ開濶、遠ク吉野葛城ノ諸峰
ヲ望ミ、其勝景絶佳ナルコト禿筆ノ能ク竭ス所ニアラズ。
殊ニ
大極殿遺址ノ如キハ今ニ現存シテ、当時
皇室規模ノ森厳ナリシヲ窺知スルニ余リアリ。斯ル神聖
ノ地ヲシテ永ク荒廃ニ委スルヲ慨キ、其顕彰ヲ唱導セ
ラレシ有識ノ士モ尠カラズ。又地方ノ有志者モ屢々会合シ、
或時ハ社殿ヲ創建セント企テ、或時ハ一大碑石ヲ建ント欲シ、
又一小渾木ナリトモ建テヽ、以テ顕彰ノ一端ニ供セントセリ。
然リ而テ時未ダ来ラズ、議常ニ熟セズ、其計画モ水泡ニ
帰セリ。偶々伊勢山田ノ人木村一郎、突如来リテ実地ヲ
踏査シ、示後屢々来リテ、建標ノ事ニ熟心セラレタリ。
客年四月十四日、郡山中学校水木教諭ノ揮毫セラレシ書
ヲ携ヘ来リ、之ヲ建標ニ擬シ、該地ニ就テ撮影セシ時ノ状
態、一見恰モ狂セルモノヽ所為ニ似タリ。其熱心ナルコト斯ノ
如シ時ニ、岡島彦三・松田利三郎・大沢菅二・宇佐美和三郎等、
大ニ力ヲ尽シテ、一大標木ヲ建設セント計画セシモ、是亦

其議熟セズ。荏苒空シク日ヲ送リシカ、本年一月、其議再発シ、幸ナル哉、宮址所在ノ人々モ大ニ賛同セラレ、終ニハ都跡全村挙テ協賛セラルヽニ至レリ。茲ニ於テ有志者更ニ会合シテ、建標ノ設計及費用ノ預算ヲナシ以テ衆ニ諮リシニ、是レ亦異議ナク賛成セラレ、遂ニ多年企図セル建標ノ素志ヲ達スル端緒ヲ開キ、有志者ノ歓ビ比スルニ物ナシ。蓋シ費金出途ノ方法ニ関シテハ岡嶋彦三・戸尾善右衛門・松田利三郎・大沢菅二・飯田岩次郎氏等ノ全ク斡旋ノ宜シキヲ得タルヲ以テナリ。

三月八日有志者会合（松田利三郎氏宅）シ熟議ノ上、建標挙式ヲ四月三日ノ佳辰ト定メ、該事務ヲ分担シテ式場掛（式場ノ地均シ来賓饗応ニ関スル諸事）建標掛（標木ノ撰択石材ノ購入等ニ関スル諸事）、庶務掛（標木ノ揮毫官衙ノ照会趣意書遺址図招待文案挙式順序等）ノ三トシ、式場掛ニハ松田利三郎、建標掛ニハ大沢菅二・吉村善四郎、庶務掛ニハ岡嶋彦三・宇佐美和三郎ト定メ、而テ繁簡相助フルコトヽナセリ。

同十六日会合（本村役場議事堂）シテ、各自分担セル事務ヲ報告シ、更ニ熟議ヲナシテ左記ノ諸件ヲ決定ス。示後式場掛ハ式場ノ地均シ、通路ノ開拓及来賓饗応ノ準備等ニ関シテ昼夜ヲ弁セズ、建標掛ハ用材撰択、石材ノ購入等ニテ東西ニ奔走シ、庶務掛ハ官衙ノ照会、揮毫ノ依頼、挙式ノ順序取調等ニテ日モ尚ホ足ラズ、何レモ熱心ニ能ク分担事務ニ鞅掌セリ。（後略）

3章　⑱地ならし人夫記

平城宮大極殿建標ニ付地均シ人夫記

明治三十四年三月廿四日

井上安二郎　中村末吉　井上楢蔵
井上荘吉　大東喜七　岡田庄松
河村善五郎
同三月廿七日
松田□三郎　河村善五郎　藤江元吉
奥田伊之吉　吉村卯之吉　吉田末吉
喜多勇二郎　城山平四郎　城口忠四郎
城本多三郎　城本楢吉　城田常吉
森田安吉　戸尾善右衛門　斎藤亀蔵
尾野善五郎　杉本菊松　岡田庄松
福田倉蔵　福田弥之吉　岡本弥太郎
池田常二郎　橋本久五郎　田村安吉
吉田卯之松　中島丑松　野村伊之吉
村田久五郎　沢口秀松　村田力松
沢田源三郎　沢村栄太郎　豊田善三郎
大井音松　中川亀吉　小山為吉
吉村奈良吉　川辺長松　森田巳之吉
同三月廿九日
吉田惣五郎　大井戸定吉　福田勘七
田中喜太郎　河村宗吉　福井梅吉
中田磯吉　岡村音松　藤田由松
中西土松　岡田伊八　川添清八
山下鹿蔵　山田幸三郎　大西千吉
藤田留吉　城前弥惣吉　西川常二郎
吉崎亀吉　藤田菊二郎　戸尾麻二郎
村田卯之吉　川辺卯之吉　城本高蔵
小山倉蔵
同四月一日
山田幸三郎　森田安吉　奥田伊之吉
吉村卯之吉　松田茂三郎　吉田末吉
吉田作二郎　藤江元吉　伊藤勘平
城口忠四郎　城山平四郎　岡田荘松

河村善五郎　村田久五郎　中川亀吉
小山為吉　沢田源三郎
同四月二日
吉村奈良吉　村田力松　溝口吉太郎
森田巳之吉　山下鹿三　藤田由松〔吉カ〕
塚原千吉　豊田善三郎　城田常三
川崎長四郎　戸尾善右衛門　喜多勇二郎
藤田留吉　池田常二郎　城本楢吉
田村安吉　橋本久五郎　中島丑松
山本長二郎

同四月三日
岩田庄七　岡本丑松　森田巳之吉
城本多吉　吉村巳之吉　川合留吉
川本惣吉　中島亀吉　川辺卯之吉

同四月三日挙行ニ付案内人不残
午前七時ヨリ惣出ニテ準備ス、

3章　㉓関野貞の返事（葉書）

※葉書裏面のみを抜粋。

拝啓陳ハ　平城大極殿
旧址建標式挙行ニ付、
御案内を賜付而　辱奉存候、当日ハ
是非出席仕度候間、左様
御承知被下度、如此申上候、
先ハ右迄敬具、

三月卅日

3章　㉖建標式諸分担簿

（表紙）

明治三十四年四月起
平城御宮址建標式諸分担簿
建標有志総代

（本文）

建標挙行式場分担諸掛人名

一、受付
高橋幾太郎
尾野善五郎
溝口吉太郎
宇佐美和三郎
沢村栄太郎
田中源四郎
中田楢市
吉村善四郎
松田茂三郎

一、来賓掛
城田常吉
城口忠四郎
吉田作次郎〔末吉〕
城本多三郎
森田安吉

西方

一、休憩所掛

東方

一、休憩所掛　村田久五郎　村田力松　大井音松　吉村楢吉

一、折詰掛　豊田善三郎　岡田庄松　川村善五郎　川辺長松　井上庄吉　中山倉治

一、酒取締　沢田源三郎　喜多勇二郎

一、御神酒　大東喜七　沢口秀松

一、茶方　岩田庄七　河村宗吉

建標式挙行来賓休憩所割

一　御皇族方　知事　高等官　郡市長　属官

一、戸尾本家宅（善右衛門）

一、溝口吉次郎宅　県会議員　華族

一、尾野善五郎宅　各宗管長　地方来賓

一、戸尾麻次郎宅　祭王及什属員

一、沢田源三郎宅　各町村長　警察署長

一、沢口秀松宅　各小学校長　地方来賓

一、豊田善三郎宅　奈良来賓

一、沢村栄太郎宅　各裁判所長　新聞記者　各学校長

一、野村善四郎宅　各大字惣代　同評議員　村会議員

平城宮跡資料館　令和3年度　春期特別企画展（会期：令和3年4月29日～5月30日）

『平城宮跡保存運動のさきがけ』　展示品目録

No.	資料名	点数	所蔵
1章：標木と古写真　―明治時代の大極殿			
①	標木(明治43年)	1本(2点)	溝辺文昭氏
②	標木(明治34年)	1本(2点)	溝辺文昭氏
③	明治41年頃の大極殿古写真(『奈良県名勝写真帖』)【パネル展示】		奈良県立図書情報館
④	大正4年頃の大極殿古写真(『御大礼記念写真帖第２編』)【パネル展示】		
⑤	大極殿壇上の標木の古写真(絵はがき)【パネル展示】		奈良県立図書情報館
2章：平城宮跡のむかし			
⑥	大和名所図会　巻一	1冊	奈良文化財研究所
⑦	家宝の亀鑑	1冊	岡嶋良男氏
⑧	棚田嘉十郎聞書(追親王跡去昇天我父之経歴)	1冊	奈良文化財研究所
⑨	大和国添下郡佐紀村誌	1冊	奈良文化財研究所
⑩	五ヶ村絵図(享保九年)【パネル等展示】		歌姫町自治会
⑪	平城宮大内裏坪割之図(部分拡大)【パネル展示】		北浦清人氏
⑫	古の奈良(明治33年1月1日『奈良新聞』記事)【パネル展示】		
3章：明治34年の標木建設			
⑬	平城宮大極殿旧址建標録	1冊	岡嶋良男氏
⑭	平城宮大極殿旧址建標録(⑬)文首【パネル展示】		岡嶋良男氏
⑮	標木の見取り図(⑬からの抜粋)【パネル展示】		岡嶋良男氏
⑯	建標設計書	1冊	岡嶋良男氏
⑰	平城宮旧址建標寄付金量収帳	1冊	岡嶋良男氏
⑱	地ならし人夫記	1冊	岡嶋良男氏
⑲	紀念盃・封筒・菓子の図(⑬からの抜粋)【パネル展示】		岡嶋良男氏
⑳	建標式挙行案内状	1通	岡嶋良男氏
㉑	建標趣旨書	1通	岡嶋良男氏
㉒	平城宮大極殿遺趾略図	1鋪	岡嶋良男氏
㉓	関野貞の返事(葉書)	1通	岡嶋良男氏
㉔	都跡村大字横領の返事(葉書)	1通	岡嶋良男氏
㉕	招待人名簿	1冊	岡嶋良男氏
㉖	建標式諸分担簿	1冊	岡嶋良男氏
㉗	大極殿土壇上の配置	1鋪	岡嶋良男氏
㉘	大極殿出土瓦・箱のフタ	2点	岡嶋良男氏
㉙	明治34年4月5日奈良新聞【パネル展示】		岡嶋良男氏
4章：平城神宮建設会の活動　―棚田嘉十郎の運動へ			
㉚	平城神宮建設会会則【パネル展示】		岡嶋良男氏
㉛	幹事会開催の回章(回覧状)	1通	岡嶋良男氏
㉜	平城宮趾顕彰会趣意書	1冊	岡嶋良男氏
㉝	平城宮旧趾紀念翼賛簿【パネル展示】		奈良文化財研究所
㉞	平城宮址建碑計画趣意書	1巻	奈良文化財研究所